

重点施策 7 市民総参加のスポーツと健康教育の推進

【施策方針】

生涯にわたって、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図り、市民が健康で明るく生活できるよう努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 生涯スポーツの振興
- ② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携
- ③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の推進
- ④ 国体準備事業の推進

(2) 施策・事業の実施状況

① 生涯スポーツの振興

スポーツに親しむ市民の拡大と継続したスポーツの推進を図り、社会体育を通じて、すべての市民が健康で明るく生活できるよう努めた。

- ・ 市体育協会への助成を通じて、優秀な成績を収めた方の顕彰や、スポーツ大会の開催、全国大会などへの出場者に助成を行うなど、スポーツ活動の振興を図った。
- ・ スポーツ少年団への助成を通じて、交流研修会、体験発表会、ソフトボール及びサッカー大会を開催した。また、大会の参加や開催を促進し、競技力の向上に努めた。
- ・ 生涯にわたってスポーツに親しみ、健康で活力ある地域社会を実現し、えひめ国体の開催を市全体で盛り上げて行くため、「伊予銀行女子ソフトボール部による小学生を対象としたソフトボール教室」「山本隆弘氏とパナソニックパンサーズによる中学生を対象としたバレーボール教室」を開催した。
- ・ スポーツ推進委員によるドッジボール大会を開催するなど、生涯スポーツの普及に努めた。
- ・ 公認スポーツ指導員等の資格取得に対して助成を行うなど、指導者の育成及び確保に努めた。
- ・ 社会体育施設の保守点検を適宜行い、不良箇所の修理を行うことにより、安全で快適なスポーツ、レクリエーション活動の環境整備に努めた。
- ・ 市民スポーツフェスタ 2016 (17 地区公民館、1,100 名参加)、第 37 回八幡浜市クロッケー大会 (18 チーム、66 名参加)、市民健康マラソン (687 名参加)、八幡

浜駅伝カーニバル（118 チーム、590 名参加）の開催など、市民が気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、市民へのスポーツ、レクリエーションの機会を提供した。

- ・ 第 15 回大学女子学生ソフトボール大会（8 チーム、204 名参加）を開催し、スポーツ交流人口の増加と地域振興を図った。

② スポーツ活動体制の充実・強化、学校体育との連携

市民のスポーツ活動の場として、学校体育施設を開放し、広くスポーツの健全な普及促進と健康増進を図るとともに、学校体育との協力体制の推進に努めた。

- ・ 学校施設の体育館及びグラウンドの開放を行い、市民へのスポーツ、レクリエーション活動の場を提供した。

③ スポーツ・レクリエーション施設の整備、野外活動の促進

児童生徒の自然とのふれあいの中での豊かな人間性を養う野外活動の展開を図った。

- ・ 第 48 回八幡浜市歩け歩け大会（700 名参加）、やわたはま国際 MTB レース 2016（4, 200 名参加）、シクロクロスやわたはま（250 名参加）などのアウトドアスポーツイベントを開催し、スポーツ交流人口の増加と地域振興を図った。
- ・ マウンテンバイクの貸出し事業を実施するとともに、定期的にマウンテンバイク教室を実施し、競技の普及促進に努めた。
- ・ えひめ国体開催に向け、成年男子バレーボール競技会場である市民スポーツセンターメインアリーナを中心に改修を行った。

④ 国体準備事業の推進

平成 29 年に開催されるえひめ国体に向けて、市民に対する周知と理解を深めてもらうため広報啓発活動を積極的に実施した。また、バレーボールとソフトボール競技リハーサル大会の開催では、庁内組織として市実施本部を設置して、協会の競技役員、市民ボランティア、関係団体との連携を密に取りながら、円滑に大会を運営できた。リハーサル大会の開催後には、「総務・企画」、「競技・式典」、「宿泊・衛生」、「輸送・警備」の四つの専門委員会を開催し、大会運営における反省点や改善点を検証するなど、えひめ国体・えひめ大会の成功に向けて準備を進めた。施設整備については、施設所管課及び所管係と連携しながら必要な整備を行った。

【事務事業点検評価委員意見】

- 市民が生涯にわたって心身共に豊かな生活が出来るよう、スポーツレクリエーションの大切さは常に言われ続けている。本市における国体・障がい者大会の開催、2020年の東京オリンピックと市民のスポーツに対する関心度は大変高まっている。市民の声に対応できる社会体育の推進をお願いしたい。
- 市民参加の行事等は、年々盛んになっており、盛り上がりが感じられる。
- 一流選手による「スポーツ教室」は、子どもたちの夢と技術の向上につながっている

と思うので、国体が終わっても継続していただきたい。

- スポーツ少年団は、団数、団員の減少が進む中、スポーツを通して子どもたちの健全育成のため、今後も助成をお願いしたい。
- スポーツパーク、王子の森スタジアム、市民スポーツセンターの改修等、施設の充実化を計られているが、今後とも閉校した学校グラウンド等、スポーツレクリエーション施設の有効利用、充実を図っていただきたい。

【自己評価】

- えひめ国体・えひめ大会において、一人でも多くの方に様々な形で関わっていただき、市民が感動や希望を分かち合えるよう大会周知に努めた。また、バレーボールとソフトボール競技の各リハーサル大会開催後には、「総務・企画」、「競技・式典」、「宿泊・衛生」、「輸送・警備」の四つの専門委員会を開催して、大会運営における反省点や改善点を検証し、本番の成功に向けて準備を進めた。
- 平成 28 年度は八幡浜市民スポーツセンターにおいて、メインアリーナの床張替工事や多目的トイレの整備、バリアフリー化等の各種改修を実施した。王子の森スタジアムにおいても緑地公園部分の整備を進めており、国体開催までに、各競技会の適正な運営と来場者の快適な環境整備に取り組みたい。
- 市民参加型のスポーツイベントについては、今後も引き続きマンネリ化に陥らぬよう、内容の見直しや工夫を凝らしつつ、事業の展開を図っていく。
- 大規模スポーツイベントの実施にあたっては、スポーツ交流人口の増加によって地域振興に努める。また、開催にあたり、市民の協力を仰ぎ市民全体で盛り上がるイベントを継続し、スポーツイベントに対する住民ニーズの多様化と変化に対応するため、事業内容を検証し、必要に応じて見直しを図る。企業の社会貢献活動のもと、子どもたちがトップアスリートとスポーツを通じて交流することは、大変意義があるものと感じている。今後もできる限り機会を提供していきたい。
- スポーツ活動を通じた青少年の健全育成を図るため、今後もスポーツ少年団活動を下支えするための助成を行っていく。また、少子化の影響を受け、単位団及び団員数が減少傾向にあるが、過去の行事内容にとらわれず、市内のスポーツ少年団全体での交流事業を充実することによって、スポーツ少年団活動を維持していくことを検討する。